

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	2170200535
法人名	有限会社アイシン
事業所名	グループホーム だいにんの花
訪問調査日	平成 19 年 4 月 6 日
評価確定日	平成 19 年 5 月 17 日
評価機関名	旅人とたいようの会

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年4月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2170200535
法人名	有限会社 アイシン
事業所名	グループホーム だいにんの花
所在地	〒501-3202 岐阜県関市西神野605番地の2 (電話)0575-20-0012

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	〒503-0897 岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成19年4月6日	評価確定日	平成19年5月17日

【情報提供票より】(平成19年3月13日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	6 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 8.8

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	11,000 円	
敷金	有( ) 円) ○無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	○ 150,000 円)	有りの場合 償却の有無	○ 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	450 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		1,100 円	

### (4) 利用者の概要(3月13日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名	
要介護1	3 名	要介護2	3 名			
要介護3	2 名	要介護4	名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	80.5 歳	最低	68 歳	最高	87 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	今嶺クリニック、中濃厚生病院、後藤歯科
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

リビングでは自然に皆が集まり、笑い声が響き、今日も何か楽しいことがあると予感させるような明るく生き生きとした暮らしがある。管理者を始め職員が常に利用者を中心とした生活を一緒に楽しみ、さりげなく支えている。地域住民と一体となる交流を「何処にも負けないものに」と管理者は捉え、隣接する交流センター(婦人部)・農業センター(職員)と学習したり旅行に行ったり、消防署の指導で避難訓練を一緒に実施するなど「何かあったら、とんで来る」と言われる関係があり、相互に交流が絶えない。特に管理者は行動力とアイデア、笑いに溢れ、「利用者の行きたいところしたいこと」の夢を夢で終わらせないで叶えたいという意志と努力がホームの特徴である。加齢に伴い重度化することを予測し、医療体制、職員体制を整える課題を認識し、職員研修を意識しホーム全体の質の向上に取り組む姿勢が見られる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>・アセスメントを書類にする ・緊急時の手当 ・家族への情報提供 以上の要改善項目は全て職員で検討して改善できている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員が各々に自己評価を実施し、その結果を踏まえ改善に取り組んでいる。外部評価はホームの気づかない点を気づく機会と捉え、外来者にも開示しており、サービスの向上に前向きである。地域密着型サービスになり運営規定など関係法令等の改正に伴い書類の見直しが見られる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4.5.6)</p> <p>運営推進会議の開催により、ホームの行事、サービス内容等の報告や関係者との交流の場、大きな行事や防災訓練等の実施時においては、家族、地域に協力を依頼し共同で行うなど地域において理解や連携、交流が促進されている。また、市担当者との関係も図られ、相談等スムーズに行えるようになってきている。家族参加の少なさを会議内容に苦慮しているが、報告等の一方だけでなく、ホームの諸課題を提起し一緒に検討し協力してもらえるなどの場としての活用も望まれる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7.8)</p> <p>月1回のホーム便りやお手紙で、訪問者には気安い雰囲気近況を伝え要望を聞いている。契約時には口頭で意見・苦情の受け付け窓口や受付機関を説明し、苦情要望申立書を数枚手渡しし言いやすい配慮をしている。再度、重要事項説明書の明示に留まらず、ホーム以外の相談窓口(国保連・行政・第三者)を明示しいつでも気兼ねなく苦情意見が言える配慮が望まれる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開設3年を過ぎ自治会の一員として敬老会・祭礼・交流センターを通して婦人会、農業センターを通して農作物など地域住民と又中学生とも毎月深い交流ができています。更に管理者・職員は利用者にとってよりその人らしい生活の場となるキーパーソンとして又地域に根ざした交流を促進することを期待する。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にしましょう」という独自の理念を玄関に明示するとともに、「だいこんの花」の由来から、ひとり一人の思いを大切にしたいケアの実践を目指し、その実現に地域との関わりが生活の継続として大切なことを職員全員が理解している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常勤・非常勤全員が参加する月1回の会議には理念に基づき、強制しない、職員のペースにならないよう確認している。連絡ノート、介護日記、介護記録の文章表現等の記述にも配慮し、確認のための回覧、サインするなど行っており、必ず情報が伝わり共有できるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し敬老会、祭礼の花みこしや隣接する交流センターのカラオケ・生花教室には職員と共に日常的に参加している。中学生とは1年を通して毎月交流を続けている。ホームの行事・焼き芋大会は、野球少年団や地域住民合わせて大勢が訪れ楽しむなど相互の交流が盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は一部の者だけに関わるのではなく、管理者・職員全員で評価を行い、外部評価では、ホーム、当事者では気づかないことを気づく事など意義や重要性を理解している。公表後、指摘された項目や意見は、会議で議題に取り上げ、速やかに改善に繋げている。外部評価票は玄関に置いて公表開示している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、関係機関だけでなく全家族に声かけ家族同士の交流もできるような積極的な参加を呼びかけている。家族と一緒に利用者も参加し、利用者は「できない人」と地域住民に思われていたが、ドブ掃除、草刈もできる人と認識してもらえた。意見や要望は会議で取り上げサービス向上に取り組んでいる。		運営推進会議へ家族参加が少ないことや議題提言への苦慮は理解できるが、会議議題は、ホームの行事や取り組みの報告や質疑応答など意見も少なくマンネリ化している。会議では、ホームへの協力や課題・問題などを一緒に検討してもらうなど、ホームからの報告など一方向の会議の場とならないよう工夫を期待したい。また、家族参加が少ないための促進には、ホームが既に検討しているように行事に絡ませ開催するなどの実現が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に参加は勿論日ごろからホームの状況、体制など意見交換をしている。ホームの行事にも参加を促し、引き続き会議を開催する方法も考えている。		市町村は介護保険の保険者として重要な存在と理解されているが、事業者から市町村担当者へ関わりだけでなく、ホームの行事、活動等に際して見学・協力してもらうなど働きかけや企画など積極的な連携の取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回ホームたよりを発行している。月1回請求書の送付とともに健康・生活などに関する近況、金銭出納状況を報告している。訪問者にはその都度近況の写真や言葉で伝えたり、緊急時等変化があればその都度電話メールなどで知らせている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時には苦情受付窓口や担当者、ホーム以外の苦情相談受付機関を説明している。いつでも、苦情相談等を出してもらえるよう、予め、申し立て書を数枚渡している。家族の訪問時には気安い雰囲気配慮し意見や希望を聞いている。訪問の少ない家族には手紙や電話で尋ねている。		重要事項説明書にホームの相談窓口は明記しているが、ホーム以外の窓口、国保連、行政、第三者など他種あれば言いたい方がいい辛い気持ちが緩和されると考える。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職が少ないホームであり、管理者は、不満、相談の機会を設け最小限に抑えている。ホームは1ユニットではあるが、十分な職員配置体制を敷いており、利用者への配慮や職員の労働環境を整えているなど努力している。		ホームでは職員の離職に際して、利用者へのダメージを考え、伝えないなどしているが、特殊な場合を除いて、利用者に説明しないことは、信頼関係上、逆効果になることが懸念される。そのため、新旧の職員の引継ぎを十分に取るなど、スムーズな移行ができるように配慮した上で、利用者にきちんと説明して職員交代等が行えることが望ましい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながらのトレーニングは行っているが、運営規定に採用3ヶ月、年2回の明示しているが、計画的に実施されていない。研修に参加した場合は、ミーティングで時間をかけ研修の報告をしている。職員一人ひとりの向学心は高く、介護福祉士、介護支援専門員に合格したこともあり、社内研修の機会を設けたい意向がある。		既に取り組みを検討しているが、敷地内に関連法人の小規模多機能居がオープンしているので、職員の資質向上のため、職員による研修の他、外部講師による研修は専門性や新しい知識を得るためにも重要であるため合同の勉強会や外部研修の参加など協力して計画的に行えるよう実現が求められる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回、県グループホーム協議会支部会に管理者が出席し、ホームの状況や課題、記録の方法など意見交換をし他のホームから学ぶなど改善に繋げている。職員には同業者の見学研修に行き、その気づきを会議で報告学習し共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の希望や意思が重要と捉え、家族だけの契約等の判断とならないよう、本人・家族で見学し環境等を理解した上、入居の説明を行い、本人が納得して利用に至ることを大切にしている。入居時に情報シート4枚から本人の今までの情報を知り、早期になじみの関係、その人らしい生活作りを心がけている。1ヶ月は職員がコミュニケーションに気配りしケア計画に活かしている。		
編み物					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者を主体において、料理・洗濯・掃除・編み物などの活躍の場面作りを大切にしており、利用者のやり方を重視し職員は利用者から学ぶスタイルで接し、ともに支えあう関係となっている。		時にはゆとりなく、職員のペースになったり、声かけも急がせる言葉になることがある。時間通り食事が出せなくても、時間が遅れても、利用者本位の時の流れ、生活の流れにあわせる職員側にゆとりをもつ話あいを期待したい。
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの得意なこと、好きなことを把握し、やりたいこと、したくないことなどの本人の意向やその日の表情・体調も確認しながら無理強いをせずに関わっている。また意思の言えない利用者の想いにも1対1で対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント方式を改め、ケアマネジメントセンター方式を取り入れている。利用者の担当職員を決め、アセスメント、モニタリングを会議にかけおり、利用者及び家族の参加や意見を反映した、利用者の視点や暮らしを重要と捉えた介護計画となっている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常、3ヶ月に1回の見直しをしている。状態等の変化などにより必要な場合は、1ヵ月ごと、随時、会議を行うなど新たな介護計画の作成や見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人や家族の要望に対する支援として、医療機関への受診や送迎など行っている。		地域密着型サービスとして、必要時のショートや通所は、在宅支援の継続に繋がることから、ホームは事業の開始後3年を経過しており、短期利用生活介護や共用型通所介護の事業が可能なこともあり、今後、検討も望まれる。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関として、個人病院(内科・歯科)、総合病院と連携を密にしている。2週間に1度の往診や緊急時にも気軽に相談や指示が得られる体制がある。利用者個人のかかりつけ医も確保している。		スムーズな連携・連絡や今後の利用者の重度、重症化を踏まえ、更に、協力医療機関体制をより深められることを期待する。
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして本人・家族の意思を尊重しており、今後の方向性として課題と捉えている。現在、看護師は配置しているものの、職員体制や医療機関の連携が不十分であるため、ホームでは、入院又は他施設への入所となることを契約に謳い、利用者及び家族に対し事前に説明し理解してもらっている。また、職員も方針について周知している。		身体機能の倦怠は自然現象と捉え、馴染みの関係の中で加齢、終末を迎えたい、いつまでも住み続けたい想いを叶えられる体制作りを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉かけや対応は、やさしく温かく誇りやプライバシーを害うものではない。利用者一人ひとりの尊厳を大切に、適切な言葉使いを重視し職員指導をしている。日常の言葉使いだけでなく、記録も家族に提示するので分かりにくい記号を使用しないよう注意している。		利用者と職員は非常に良い関係が築かれているが、外出の折やトイレ誘導の声かけ時など、おしっこ、尿漏れ、キャッチなど人前で不用意な言葉や会話が、自尊心を損ねることを考え、場面を踏まえた表現等を配慮が望まれる。職員一人ひとりが気づかない言動を振り返ることを社内研修などで気づく場を検討されたい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ほとんどスケジュールは存在せず、毎朝その日のしたいことを尋ねて業務(散歩・花見)をしている。利用者ひとり一人の望むペースに合せた暮らしとなっている。男性1人で孤独と感じられたが会社の上司だった経緯で常に静かに監督役でクリスマス会では挨拶を上司としてユーモアをいれ話している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立、調理、配膳など利用者の好みや希望、特技などを取り入れている。朝食は身体(内蔵機能)が起きていないので静かに、昼食は職員も一緒に楽しく笑い声が出るほどにぎやかである。食材の山菜をとりに行ったり、地域住民がビニールハウスで栽培してくれた野菜を収穫に行き食卓にのせている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は隔日入浴にしているが、希望にあわせて毎日でも可能である。その日の順番は細心の気くばりをしている。入浴されない方にも入浴剤を入れ温泉気分を膨らませるなど工夫をしている。		冬場、夏場など季節や活動状態により、時間帯も含め希望に沿った入浴が可能になる介助者の工夫を期待したい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	漬物漬ける、編み物、縫い物、芋の皮むき、山菜とりなど家族から、日常生活から見つけ楽しみながら得意分野をお願いしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望にあわせ、戸外に出ることを優先している。車椅子、杖、車を利用し気分転換や外気に触れ五感の刺激の機会と考えている。足湯、花見など職員が感動した所へ利用者をお連れしたいと考えている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠で日中は全て開放している。庭へ洗濯物を干したり取り入れたり、花の水遣りや犬の世話などの役割もあり、妨げることなく自然で普通にしている。隣接の交流センターの入り口も開放され出入りは自由である。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の非難訓練を利用者、職員、地域住民の参加と消防署の協力で実施している。「近くの方が来んといかんで」と地域の方が理解され率先して協力している。災害に備えて1年分の米を備蓄をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好や希望を取りいれ偏らない、献立で3食とも食べ残しがないような献立で栄養バランスにも配慮している。毎食汁物をつけ、午前・午後入浴後には水分補給を行い、一日の水分量を確保している。保健婦の指導を受け糖尿病食でカロリー計算している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間、食堂、浴室、トイレなど清潔で不快な臭気、音(テレビ)も全く気にならない。窓際の籐椅子、大きいソファ、電気按摩器、和室のコタツ、桜の貼り絵など季節や生活を感じることができるなど工夫している。装飾や時計、カレンダーなど常に利用者にとって見やすい位置にあり、華美でもない。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	床に絨毯を敷いている、箆笥、衣服掛けハンガー、家族写真(孫の結婚式)化粧品、新聞、椅子(好みの)靴、座布団、ベッドの向き、持ち物が簡素など利用者一人ひとりが思い思いに居心地よく生活ができる好みの居室となっている。		